



園だより

文京区立第一幼稚園
2021年度6月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

自然と関わりながら過ごすことを大切に

副園長 和島 千佳子

幼稚園の鉄棒近くのプランターでアブラナ（菜の花）が咲き終わり、さやの中に種ができている様子に気付いた子供たちがいました。これは昨年度、秋から春にかけて年少組が育てたものです。5月半ばのある日、年中組の担任が、そのさやを茎ごと取って保育室に持ち込むと、興味をもった子供たちがやってきて、種とりが始まりました。

きぐみでは「これ、何?」「種だよ」「ちっちゃいね」「どこ?」「ここから出てくるの」と感じたことや伝えたいことを言葉にして表したり、黙々と手指を動かし極小の種を真剣に容器に集めたりしています。ももぐみでは、「何の種?」「なのはな、だよ」「ん?なんのはな?」という会話も聞こえてきます。

種がたくさん集まって嬉しくなり、離れた場所にいる友達に見せようとして思わず駆け出したAさん、手に持った容器から種が床一面にこぼれてしまいました。これはたいへんだ、とそばにいた人たちが気付いて、皆で拾い集めたりすることも、どこか楽しげなひとときとなりました。

こうして集めた種の半分は、離任式に来てくださった先生方に、年中組からのプレゼントとしてお渡ししました。また次の季節に、第一幼稚園や、それぞれの先生の過ごす新しい場所で、かわいい花を咲かせ、種をつけていくことでしょう。種を通し、現在と過去、そして未来がつながり、出来事を通して関わる人々の思いがつながっていくことを実感しました。

そのような折、岐阜県美術館の私の知人から、幼稚園にアサガオの種が届きました。この種は、2003年に新潟の^{あさみひら}筋平から始まり、以降、様々な地域で関わる人々がつないできたものだそうです（^{あさってあさがお}明後日朝顔プロジェクト）。この種は、筋平から水戸、そして岐阜の「ながら」を経て、ここ第一幼稚園にやってきました。早速、興味をもった子供たちと種を蒔いて育てることにしました。生長や、そこで起こる出来事が楽しみです。

今、園内では、2階ベランダのこここ畑や舗装園庭のプランターには各学級で植えた野菜苗が育ち、土の園庭にはアジサイが咲き、門のそばではビワがおいしそうに色付いてきています。また、草花のあるところには虫がいて、ダンゴムシは、年齢を問わず多くの幼児に人気があります。大きさから「お母さん、あかちゃん」と呼んだり、手のひらにのせてみて「くすぐったい」と笑ったり、「(ダンゴムシは)じめっとした暗い所がいいんだ」と見付けやすい場所について経験や知識をもとに探したりしています。

保護者の皆様も、日々の送り迎えの際など、ぜひお子さんと一緒に園庭や通園路の自然の様子に目を向けてみてください。子供たちならではの視点や発想からの楽しいひとことや、科学的な気付きにつながる疑問などが聞けるかもしれません。そのような、一人一人の思いや気付きの種も、大切に育てていきたいと思えます。

ミニトマトの
小さな実
(年少組)



小さな種をとって
集めました
(年中組)



友達と二人組で
大きな紙に大きな木を描きました
(年長組)

